

令和6年産 美里地区の稲作情報

宮城県美里農業改良普及センター 第6号 令和6年7月11日発行

TEL:0229-32-3115

<https://www.pref.miyagi.jp/site/misato-index/>



1. 管内生育経過

表1 生育調査結果

調査地点	品種	区分	田植 (播種)日	7月1日調査結果				7月10日調査結果				幼穂長 (mm)		
				草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (枚)	葉色 (SPAD値)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (枚)	葉色 (SPAD値)			
移植	田尻 (桜田高野)	ひとめぼれ	本年値	5月4日	66.9	607.9	9.6	40.7	79.0	576.9	10.5	37.0	9.8	
			前年比・差		±0	108%	112%	0.2	98%	105%	112%	▲0.1	95%	5.7
			平年比・差		-3	123%	114%	▲0.4	92%	119%	117%	▲0.4	88%	6.9
	鹿島台 (広長)	つや姫	本年値	5月3日	62.3	476.8	9.1	39.7	71.9	499.2	10.3	39.4	0.7	
			前年比・差											
			平年比・差											
南郷 (和多田沼)	金のいぶき	本年値	5月18日	58.7	539.5	9.1	39.5	71.8	511.9	10.1	37.5	0.8		
		前年比・差		+12	112%	110%	▲0.7	103%	121%	100%	▲1.1	107%	▲0.2	
		平年比・差		+14	110%	97%	▲1.5	94%	110%	94%	▲1.5	97%	0.0	
乾田 直播	小牛田 (北浦)	萌えみのり	本年値	4月28日	38.5	339.4	7.5	40.9	51.6	408.5	9.0	42.2	0.1	

※平年値は過去5年間の平均値。つや姫、萌えみのりはR6年からの調査。

ひとめぼれは、草丈・茎数が平年値を上回っています。高温で推移した昨年より葉色の低下がやや早く、今後の推移に注意が必要です。幼穂長は約1cmに達しています。今後予報通りの気温の推移であれば、7月26日～27日頃出穂すると予想されます。(昨年の出穂期は7月27日)

その他の品種も茎数は十分確保されています。今後予報通りの気温の推移であれば、つや姫は8月4日～5日頃の出穂と予測されます。

3. 今後の管理について

移植水稻ではおおむね幼穂形成期を過ぎていると思われるので、中干しは終了し、葉色や生育量に応じて追肥を行いましょう。

(1) 今後の生育ステージについて

表2 生育ステージの予測値(7月10日現在)

移植日	幼穂形成期	減数分裂期	出穂期
5月1日	6/26～6/30	7/10～7/14	7/21～7/25
5月5日	6/29～7/2	7/13～7/16	7/24～7/27
5月10日	7/2～7/6	7/16～7/20	7/27～7/31
5月15日	7/5～7/9	7/19～7/22	7/30～8/2
5月20日	7/9～7/13	7/22～7/26	8/2～8/6

※幼穂形成期、出穂期は主稈葉齢予測モデル(普及に移す技術第80号)と7月4日発表の気象庁1か月予報気温を用いて予測。減数分裂期は生育調査ほの平年値から出穂期の11日前として予測。

表3 幼穂長と出穂前日数

幼穂長 (mm)	生育 ステージ	外形	出穂前 日数
1	幼穂 形成期	止葉抽出	25
2			20
8～15			18
30	減数 分裂期		15
80			12
120			10
195		穂ばらみ始め	6
205			4
220			2～1
220			出穂

今後予報通りの気温の推移であれば、表 2 および管内の田植盛期から、出穂盛期は 7 月 28 日頃と予測されます(平年 8 月 1 日)。

(2)水管理

移植ではほとんどのほ場で幼穂形成期に達していますので、中干しは終了してください！

出穂前後は稲が水を必要とする時期です。出穂前までは間断かん水を基本とします。

減数分裂期ごろ日平均気温 20℃以下、または日最低気温 17℃以下が続く場合は、用水状況に配慮しながらできる限りの深水管理を行いましょう。

※7月8日気象庁発表の 2 週間気温予報では、7月21日まで低温の予報はありませんが、今後も最新の予報に注意してください。

(3)追肥

表2、4を参考に早めに行いましょう。

表 4 減数分裂期の生育量の目安と追肥量

品種	減数分裂期(幼穂長3~12cm)			
	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉色 (SPAD値)	追肥量 (標準) (窒素成分) (kg/10a)
ひとめぼれ	66~69	450~500	35~37	1.0
まなむすめ	-	500~550	36~38	-
ササニシキ	-	550~580	32~34	1.0~1.5
だて正夢	76~82	380~420	37~39	2.0
金のいぶき	80~85	490~540	30~32	1.0
こがねもち	-	420~470	33~35	1.0

本年は施肥窒素の消失が早く(古川農試調べ)、今後葉色の低下が予想されます。

出穂後の高温障害の軽減には、葉色の維持が大変重要です。長期予報では今後高温が続くと予想されています。生育量と葉色に応じて追肥を行いましょう。

表 5 穂肥窒素の施用時期と影響

	穂数の増加	1穂穎花数の増加	1穂穎花数の減少防止	登熟の良化
幼穂形成期	○	◎	○	
減数分裂期		○	◎	◎

(4)病害虫防除(発生量等の情報は、県病害虫防除所発生予察第5号(7/8発表)より)

①いもち病 発生時期:平年並み(全般発生期 7 月第 3 半旬) 発生量:平年並

鹿島台アメダスの観測で6月24日に感染好適日が出現しています。

※感染好適条件:葉いもちの大量感染に好適な気象条件(葉面湿潤時間 10 時間以上、平均気温 15~25℃、前 5 日間の平均気温 20~25℃)が出現した日。

ほ場を観察し、病斑を発見したら直ちに防除を行いましょう。



図1 いもち病の病斑

②斑点米カメムシ類 発生時期:早い 発生量:平年並

【発生源の管理】

水田周辺の牧草地等の草刈は 7 月中旬までに実施しましょう。

【水田の管理】

水田畦畔の草刈りは水稻の出穂 10 日前までに行いましょう。

【水田の薬剤防除】

- ① 基本の防除体系: 1 回目は穂揃期、2 回目は穂揃期の 7~10 日後に実施しましょう。
- ② イヌホタルイ発生水田の場合: 1 回目の防除時期を早めましょう。1 回目は出穂始~穂揃期に、2 回目は穂揃期の 7~10 日後に実施しましょう。

③紋枯病 発生量:やや多

高温多湿が発生を助長するとされており、長期予報では発生しやすい気象条件となることが予想されています。また、昨年発生したほ場では伝染源が残っているため発生しやすくなります。昨年の多発ほ場などでは必要に応じ薬剤防除を行いましょう。

紋枯病の要防除水準(収量5%減)

穂ばらみ期の発病株率

○ひとめぼれ:18% ○ササニシキ:10%

④イネツトムシ(イチモンジセセリ)

主に直播栽培において、多発した場合減収要因となります。

防除適期:第 2 世代若齢幼虫発生盛期

(7 月下旬~8 月上旬)

防除水準:1株当たり ツトが 0.5 個以上



図2 イチモンジセセリの成虫(右上)、幼虫(左)、ツト(右下)

(出典:宮城の稲作指導指針)

防除薬剤は下記の宮城県農作物病害虫・雑草防除指針サイトからお調べいただけます。

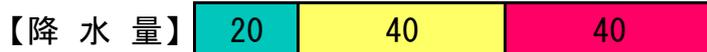
<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/noyakusearch/miyagi>

※必ず最新の登録情報をご確認ください。

7月4日 仙台管区气象台発表 東北地方太平洋側1か月予報(7/6~8/5)



・気温は、特に期間の前半が高い予報となっています。



・降水量は平年並みからやや多く、日照時間は平年並みからやや少ない予報です。



凡例 低い(少ない) 平年並 高い(多い)